平成23年度の鳥取県立博物館

1　総　　論

本県の学びの拠点として、引き続き貴重な資料の収集や保存、展示のほか、館内外での様々な講座や解説などの普及活動に努めた。

毎年多くの県民に鑑賞いただいている企画展は、平成20年度から年間５本開催しているところであり、平成23年度においても、人文・自然・美術の各分野毎に年間を通じて実施した。（平成23年度は、企画展４本）このうち、自然分野の「OCEAN！海はモンスターでいっぱい」は、大阪や名古屋等の大都市でも巡回開催され、多数の当館所蔵資料を全国に向け紹介する機会となった。

当館の国際交流の取組においては、平成22年度の韓国の国立春川博物館及びロシアのアルセーニエフ沿海地方国立博物館との間でそれぞれ締結した友好交流の協定に引き続き、平成23年度には国立春川博物館と職員の相互派遣の合意書を取り交わし、今後隔年での相互訪問を行うこととした。

収蔵スペースの確保の面では、平成21年度から３カ年計画で取り組んできたところであり、平成23年度には地階に棚や書架を整備するとともに、緑風高校の旧実習棟の一部を所管換えし図書等を移送した。

山陰海岸学習館は、リニューアルオープンした昨年度同様、多くの来館者を集めた。特に小中学校や公民館などの団体利用が大幅に増加し、多くの方々に山陰海岸ジオパークの魅力について知っていただく機会を提供することができた。さらに、展示解説・体験コーナーを担当する非常勤専門員を１名増員し、急増した来館者への適切な対応とサービス向上に努めた。また、屋外トイレを新設し、県内外からの今後一層の増加が見込まれる来館者の利便向上を図った。

⑴　組織

昨年度に引き続き、緊急雇用創出事業（商工労働部所管）として、博物館資料の整理や電子化等を進める作業を補助する非常勤職員を４名雇用した。

⑵　資料の収集・調査研究

自然部門では、鳥取県産を中心とした貴重な植物標本などの寄贈を受けた。また、鳥取県の漂着動物や生物相などに関する調査研究を実施し、その論文を当館の研究報告や学会誌に発表した。

人文部門では、企画展「鳥取鉄道物語－山陰線開通100年－」の調査を通じて、県内外の各所に残る鉄道関係資料を確認、収集し、展示の中で広く紹介した。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、島田元旦「花鳥之図」や前田寛治「海」、中ハシ克シゲ「ニノミヤ君」などを新たに収集した。

⑶　展示

企画展４回（自然分野１回、人文分野１回、美術分野２回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に10万人を超す来館者があった。

〈企画展の概要〉

自然分野：海を舞台とした６億年の生物の進化を紹介する展覧会。巨大なクビナガリュウなど約300点を展示し、海という多彩な環境に適応した海の「モンスター」たちの繁栄と絶滅の歴史をみつめ、進化の意味を学び、未来の海を考える機会を提供した。この展覧会は、鳥取会場を皮切りに、１年間をかけて大阪、岡山、名古屋と全国を巡回。

人文分野：平成24年３月で山陰線（京都－出雲今市〈現、出雲市〉間）が開通して100年となることに合わせて、鉄道を切り口に明治末から現代までの鳥取県内の近代化の歩みを紹介する企画展を開催した。

美術分野：没後50年を迎えた画家・森岡柳蔵とその周辺の画家たちの仕事を紹介する絵画展と、県内にアトリエをもち、ランドアートの代表的な作家の一人として活動する大久保英治の新作を中心とする個展を開催し、来館者の多様な関心に応えた。

山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンして以降、展示解説・体験コーナーを担当する非常勤専門員を増員し、急増した来館者や小中学校の団体利用に対応するとともに、野外観察会等の主催講座の充実にも取り組んだ。

⑷　教育普及

普及領域では、県民の生涯学習を支援するため、館内外で講演会、観察会、各種講座、ワークショップなどを開催した。

巡回展、移動博物館、出張美術教室は県下18会場で実施し、延べ9,137人が参加した。また、普及講座や講演会は年間を通して103回開催し、延べ3,315人の参加があった。

中でも美術の普及講座では、「毎週土曜日はアートの日！」とし、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、アートにふれあう機会を充実させた。また、普及講座において、自然・人文・美術・山陰海岸学習館の各担当の講座をコラボレートした、コラボ企画も数回実施した。

広報領域では、広報範囲を広げると共に、博物館施設案内リーフレット及び山陰海岸学習館リーフレットの外国語版を作成し、海外からの来館者にも対応できるようにした。

⑸　来館者サービス

一昨年、昨年度に引き続き開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

（４月１日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は午前９時～午後７時）

受付付近にトイレ・常設展示室入口への案内表示を増やし、来館者にとって分かりやすい表示をおこなった。

また、博物館カフェの経営者が変わったことに伴い、カフェの営業時間を閉館時間近くまで延長した。

2　各課の概況

⑴　総　　務　　課（平成23年度）

・喫茶（博物館カフェ）を改修し、新規事業者により新装オープン

・収蔵スペース確保事業（３カ年）３年目

・学習館に屋外トイレ新設

・学習館ハートフル駐車場に屋根設置

⑵　学　　芸　　課

●自然担当

・企画展「OCEAN！　海はモンスターでいっぱい」

・棚田耕吉植物標本整理事業（３カ年）３年目

●人文担当

・企画展「鳥取鉄道物語－山陰線開通100年－」
・歴史・民俗常設展示室改善充実事業〈小早川隆景書状１通・尼子晴久画像１幅のレプリカ製作〉
・鳥取県の歴史民俗事象調査事業〈鳥取県内の怪談の収集〉
・藩政資料整備事業（14カ年）７年目
・収蔵資料修復事業〈経久寺文書７通・刀剣１口・木造船修理２艘・屋外展示解説版16点〉
・歴史・民俗常設展示室内の映像機器の交換

●普及担当
・各種広報活動の立案及び実施
・公式ＨＰの管理運用
・収蔵資料ＤＢサーバーの管理運用
・移動博物館、移動美術館、学芸員派遣等の募集及び調整
・学校教育支援事業の開催
・学校･市町村･教育機関と連携した普及事業の推進
・ニュースレター「MUSEUM PRESS　鳥取県立博物館ニュース」No. 12、13の発行
・リーフレット「2012. 4－2013. 3　展覧会・イベントのご案内」の発行

●山陰海岸学習館
・展示解説等の来館者対応や小中学校等の団体利用の充実
・山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実

⑶ **美 術 振 興 課**

・以下の２本の企画展を開催した。
「没後50年　森岡柳蔵　―大正の叙情、パリの夢」
シリーズ　鳥取の表現者　File.03「大久保英治＿あるくことからはじまる」

３月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は本年度の企画展に大きな影響を与えた。震災の直後、関東地区からも多くの作品を借用した「森岡柳蔵」展はなんとか開催に至ったが、本年度最も力を入れていた「ジョルジョ・モランディ展」は原子力災害のため、イタリアからの作品借用が不可能となり、中止せざるをえなくなった。これに変えて急遽、博物館のコレクションを中心に「収蔵品でたどる　鳥取の美術 250年」を第１、第２特別展示室で実施し、ひさしぶりの大がかりな収蔵品展を開催した。「鳥取の表現者」シリーズでは県内にアトリエをもち、ランドアートの代表的な作家の一人である大久保英治の仕事を紹介した。

・２階近代美術展示室では、「障屏画」、夏休み企画「めぐるぐるぐる　－さがしてみよう！四季のいろ－」、「館蔵品にみる静物」、「画家と旅」の４本のテーマ展示を開催した。
・１階美術展示室では、展示室を４つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介する「コレクション展Ⅰ～Ⅴ」を開催した。
・年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」（サタデ―アートフィーバー）を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術に関する教育普及に努めた。